

## 【芸術の秋】知識ゼロでも楽しめる！

# 『死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を1冊でめぐる旅』

11月1日発売

「いつかは美術を楽しめる大人になりたい」「あこがれの美術館で名画を鑑賞してみたい」そんな人にぴったりの美術の本『死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を1冊でめぐる旅』が11月1日(水)に発売となります。人気の海外旅行添乗員でありアート系 YouTuber としても活躍する山上やすお氏の軽妙なトークとともに、まるで本当に世界の有名美術館を訪れたかのような感動体験を味わえます。



山上やすお 著

『死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を1冊でめぐる旅』

ダイヤモンド社 刊

### ■あこがれの有名美術館で、1度は目にしたい名画を観る感動体験！

美術に興味はあるのに、どの入門書を読んでも「難しい」と感じてしまう。そんな人でも最後まで楽しく読める美術の“超”入門書が発売となります。著者の山上やすお氏は、数々の有名美術館で旅行客を案内してきた豊富な経験を持つ人気の海外旅行添乗員で、軽妙でわかりやすいトークと親しみやすい人柄が幅広い年代から支持されています。山上氏との会話形式でお届けする本書では、まるで隣でガイドをしてもらいながら、自分の目で名画を観ているような疑似体験が味わえます。

本書では、ルーヴル美術館の『モナ・リザ』や、ウフィツィ美術館の『ヴィーナスの誕生』、オルセー美術館の『睡蓮』など、コレだけは絶対に知っておきたい超有名美術作品を中心に紹介します。名画にまつわる驚きのエピソードを聞いているうちに、絵の見方や関連知識、時代背景も自然と学ぶことができます。知識ゼロの読者でも、一冊読み終えるころには世界の名画と美術館を制覇したかのような満足感を得られるでしょう。また、作品だけにとどまらず、それが展示されている

国や街、美術館の魅力についても添乗員の目線でお伝えするので、「もし旅行に行ったら…」と空想を膨らませながらお楽しみいただけます。

▼会話形式なのでおもしろく、読みやすい！（本書 P.87 より抜粋）

（山上氏）さあ！ いよいよご対面ですね！ こちらが「叫び」です！

—おおお〜〜〜！ これがかの有名な「叫び」…やっぱりすごい迫力ですね！ ははっ、叫んでる、叫んでるっ（笑）。

（山上氏）えっ、今なんと？

—え…。ただタイトル通り「叫んでる」って言っただけですよ？（汗）

（山上氏）え、誰が？

—え…。この男の人が…っってもう、なんなんですか〜？

（山上氏）あはは、すみません（笑）。実は、これは本当に知られていないことなんです、この男の人は「叫んでる」人ではないんですよ。

—えええ!! いやいや、今回ばかりは譲れません！ どう見ても叫んでいるじゃないですか!!

（山上氏）と、思うでしょ？ じゃあこの人と同じポーズをしてみてくださいませんか？

■有名美術の面白いところだけをギュッと凝縮！

- ・世界で一番有名な絵画「モナ・リザ」は「モナ・リザちゃん」の絵じゃない！
- ・「真珠の耳飾りの少女」に欠けている顔のパーツとは？
- ・お父さんの●●から生まれた？ ヴィーナスの知られざる生誕秘話
- ・ムンクが彼女にピストルで指を撃ち抜かれた直後に描いた「地獄の自画像」
- ・「最後の審判」に●●を描いたおかげで名声も台無し！ 天才画家の陰に涙の画家あり など

真珠の耳飾りの少女 Het meisje met de parel / ヨハネス・フェルメール 1665年頃 44.5×39cm



恐るべき目力を見よ！ この少女の正体は一体誰？

では、さっそく作品をご覧ください。どうですか、この目力！ すごいと思いませんか？

—ほんとですよ、正面を向いてじっと見つめられているわけでもないのに…。ふとした拍子に振り向いて目が合ったような、そんな瞬間の出来事なのに目が離せなくなるような…。

—そうですよね、そしてこの小さく開かれた口がなんとも言えませんよね。何か言いかけてるのか、言い終わった後なのか…私たちの想像は尽きません。

—なるほど、どちらにも取れるんですね。…ちなみにこの女性は誰なんでしょうか？

それがわかっていないんです。

—え!? わからないんですか？

—そうですね。過去にこの絵をモチーフにした歴史小説『真珠の耳飾りの少女』が発表されたとき、彼女はフェルメールの家に仕えるお手伝いさんという設定でした。その後、その小説は映画化され、アカデミー賞にもノミネートされたことから有名になってお手伝いさん説が広まりましたが、あれはあくまでも絵に着想を得たフィクションの物語。実際にはフェルメールの娘や奥さんなど、いろんな説があるんです。

—へ〜、このキリッとした感じがカッコいいけど、家族を描くにしてはちょっとかっこよすぎるような気がしますね…。

—お、鋭いですね！ そこでもう一つの可能性があるんです。これは「トローニー」ではないかとも言われているんです。

—トローニー？ なんですか、それ？

—トローニーとはもともと、大きな作品を描くための部分習作として描かれた「とある人物の肖像画」みたいな、モデルのいない肖像画のようなものです。

—へえ〜、そんなジャンルがあるんですね！ でも誰かもわからない肖像画なんて見たいと思う人がいるんですかねえ？

—え？ 私たちもこの誰かもわからない絵をわざわざ見に来ているじゃないですか（笑）。

—あ、そっか（笑）。

—習作といえども、素晴らしい絵なら作品として販売できまさらね（笑）。トローニーは特定の人物でないため、現実を生きる人間のような臭みがなく、なんならより美しく描けるのかもしれない。また、もう一つこの作品がトローニーだと言われるゆえんがあります。彼女には何か欠けていると思いませんか？

## ■著者プロフィール:山上やすお

海外旅行添乗員/アート系 YouTuber 学芸員資格保有

兵庫県伊丹市出身。幼少の頃から絵を描くことが好きで、大学では美術を学び、イラストの制作も開始。2007 年株式会社フォーラムジャパン入社。海外をメインとした旅行の添乗員として1年の半分以上は世界各地を飛び回り、中でも美術館などアート関連での添乗に高評価を得る。2016 年より、アートの素晴らしさをわかりやすく伝えるための講座を全国各地で開催。その後、コロナ禍に突入したことから、アートに関する YouTube「こやぎ先生の美術ちゃんねる」を開設。有名な画家や美術展などを紹介・解説、親しみやすいイラストが人気を呼び、チャンネル登録者が 2 万人を超える。2021 年に開始したオンライン美術講座は総受講者数が 5000 人を超え、日本最大級の習いごと検索サービス「ストアカ」にて新人先生賞とストアカンオブザイヤーをダブルで受賞。2022 年 10 月より NHK 文化センター講師、および NHK 学園オンライン講座を担当。毎日放送『三度の飯よりアレが好き!』にて地上波デビュー。話し方・伝え方スペシャリスト資格保有。著書に『マンガで「なるほど名画」こやぎ先生が教える西洋絵画の 7 つのポイント』(SBクリエイティブ)がある。



## ■目次

- 1 日目【フランス・パリ】ルーヴル美術館でダ・ヴィンチの「モナ・リザ」を観る
- 2 日目【イタリア・フィレンツェ】ウフィツィ美術館でボッティチェリの「ヴィーナスの誕生」を観る
- 3 日目【オランダ・ハーグ】マウリッツハイス美術館でフェルメールの「真珠の耳飾りの少女」を観る
- 4 日目【ノルウェー・オスロ】ムンクでムンクの「叫び」を観る
- 5 日目【イギリス・ロンドン】ロンドン・ナショナル・ギャラリーでゴッホの「ひまわり」を観る
- 6 日目【オーストリア・ウィーン】ベルヴェデーレ宮殿でクリムトの「接吻」を観る
- 7 日目【バチカン市国】システリーナ礼拝堂でミケランジェロの「最後の審判」を観る
- 8 日目【ロシア・サンクトペテルブルク】エルミターージュ美術館でレンブラントの「ダナエ」を観る
- 9 日目【フランス・パリ】オルセー美術館でモネの「睡蓮」を観る
- 10 日目【アメリカ・ニューヨーク】メトロポリタン美術館でティファニーの「オータム・ランドスケープ」を観る
- 11 日目【スペイン・マドリード】ソフィア王妃芸術センターでピカソの「ゲルニカ」を観る
- 12 日目【東京都・上野】東京国立博物館で葛飾北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」を観る
- 13 日目【島根県・安来市】足立美術館で横山大観の「紅葉」を観る

## ■『死ぬまでに観に行きたい世界の有名美術を 1 冊でめぐる旅』

著者:山上やすお

定価:2,090 円(税込)

発売日:2023 年 11 月 1 日

発行:ダイヤモンド社

判型:A5 並・320 頁

<https://www.amazon.co.jp/dp/4478117519>

※リリース内の画像・写真は、本書籍に関わる報道を目的とした使用に限ります

**【本リリースに関する報道お問い合わせ先】**

株式会社ダイヤモンド社 宣伝プロモーション部

〒150-8409 東京都渋谷区神宮前 6-12-17

TEL: 03-5778-7244MAIL: [pr\\_info@diamond.co.jp](mailto:pr_info@diamond.co.jp)